周産期施設・医療関係者の皆様へ

新型コロナウイルス罹患と母乳に関する研究

はじめに

現在、日本国内では COVID-19 患者は増加し、COVID-19 女性が出産する症例も散見されています。
現時点で、SARS-CoV-2 が母乳に移行し、児に感染させるという報告はこれまでのところありません。
また、SARS-CoV-2 と同類のウイルスである SARS-CoV や MERS-CoV が母乳を介して児に感染することはないと考えられています。

現状では、アメリカ疾病対策予防センター（CDC）や世界保健機関（WHO）、米国小児科学会（AAP）は COVID-19 患者であっても母乳育児を推奨しています。
しかし、新型コロナウイルスは今まで存在しなかった未知のウイルスであることから、日本国内では COVID-19 患者は母乳を中止するよう指導する施設もあり、母乳と SARS-CoV-2 に関するデータの蓄積が必須と考えています。

目的

妊娠中や授乳中の女性が COVID-19 患者である場合、母乳が感染源となるのかを明らかにし、母乳中に特異抗体が存在する場合、母乳を与えることで児の症状を軽減させる可能性があるか検討します。
具体的には母乳の PCR 検査、SARS-CoV-2 抗体検査、サイトカイン測定などを行います。

対象

SARS-CoV-2 PCR 検査で陽性となった母親の母乳

参加基準

同意取得時の年齢が 20 歳以上
母体の全身状態が安定しており母乳育児を希望している

中止基準

母親の状態が悪く搾乳できなくなった場合や母乳育児自体を希望しなくなった場合は研究を中止します

研究の流れ

COVID-19 罹患妊婦入院

↓

各施設の担当医より昭和大学小児科・研究担当者へ連絡
hkuwabara@med.showa-u.ac.jp（桑原）
katsuorobi@med.showa-u.ac.jp（水野）

↓

昭和大学小児科から検体採取・送付に必要な物品を郵送

- 搾乳機×1
- 母乳バッグ×2
- ビニール袋×4
- アルコール綿×4
- 保冷剤×4
- 着払い用伝票 1 枚
- 梱包用段ボール×2

↓

産科退院前の全身状態が安定した妊婦より 50mL ほど搾乳（3 頁参照）

↓

送付した物品を用いて梱包し、昭和大学小児科に郵送（着払い）

各施設から昭和大学小児科に送っていただいた母乳が合計 20 検体程度集まったところで、UCSD※に送付し PCR 検査、SARS-CoV-2 抗体検査、サイトカイン検査などを行います。

※UCSD（University of California, San Diego, カリフォルニア大学サンディエゴ校）
本研究は UCSD の Chambers 教授ならびに Bode 教授の研究グループとの共同研究です。
また、本研究はアメリカ疾病対策センター（CDC）の許可を得た研究となります。
本研究で用いる検体は SARS-CoV-2 に関連したものですが、アメリカへの輸送は専門の業者へ依頼し、安全に輸送できるよう手配済です。

検体の採取から受け取り、郵送に関して

母親が自ら 50mL 程度搾乳（別紙”搾乳について”の説明用紙あり）
搾乳した母乳を母乳フリーザーバッグに詰める
搾乳の時期は産後 3-4 日目、産後 10 日目を目安にお願いします
（配送の都合上、土日、祝日にかかる場合、搾乳時期は 1～2 日前後しても構いません）

↓

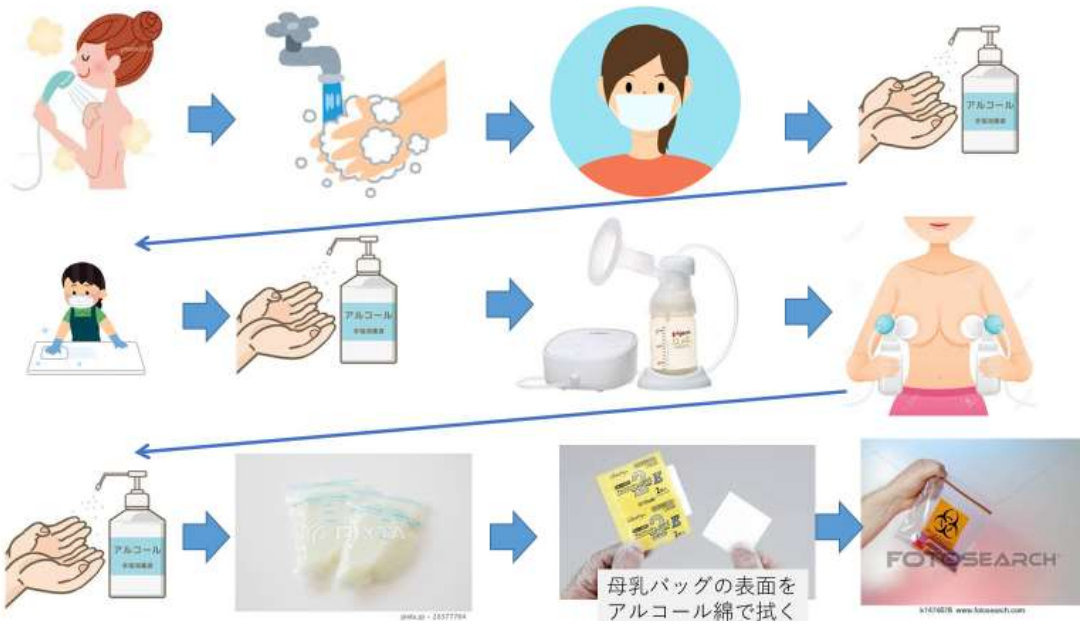
医療者は PPE を着用し検体を廊下で受け取りバイオハザード袋に入れる

↓

表面をアルコール綿で拭き、ビニール袋に入れ、最後に梱包用段ボールに入れる

↓

配送会社へ検体配送を依頼（冷蔵）
〒142-8666
東京都品川区旗の台 1-5-8
昭和大学小児科　桑原、水野　宛
バイク便の場合、ご依頼の際は着払いとお伝えください
平日（月～金）の日中に当院へ到着するようお願い致します



お問い合わせ

本研究についてご不明な点、お問い合わせ等ございましたら、下記メールアドレスまでご連絡ください。

①hkuwabara@med.showa-u.ac.jp（桑原）
②katsuorobi@med.showa-u.ac.jp（水野）

ご協力をよろしくお願い致します。

昭和大学小児科